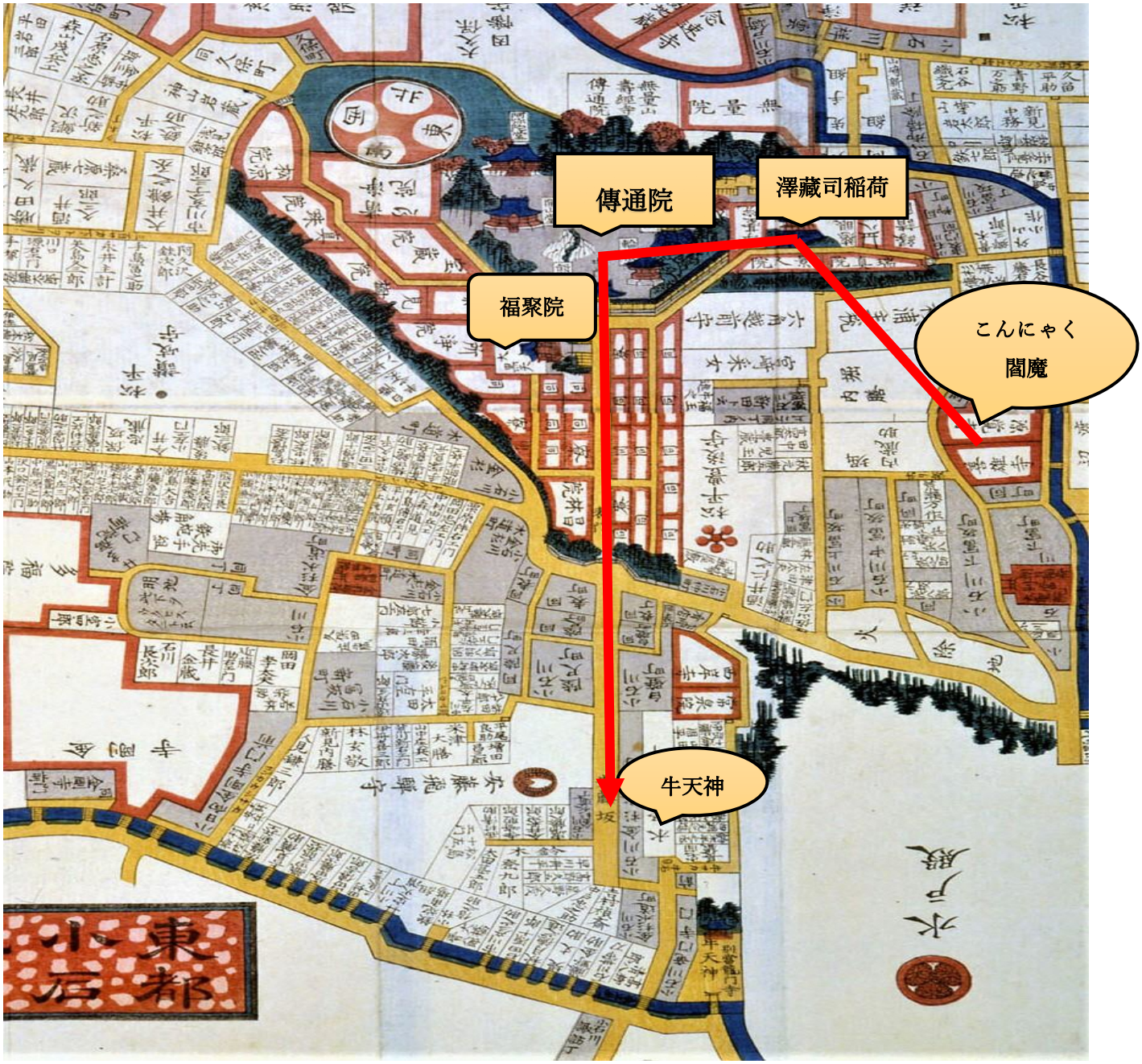
⑥礫川(こいしかわ)の寺社を訪ねるコース

小石川の台地に今も残る鎌倉、江戸時代の史跡を巡ります。その処どころの由来には夢の話やエピソードが数多く伝えられています。その時代の情景を思い浮かべながらご一緒に訪ねてみませんか。約２時間30分　3㎞



東都小石川絵図（東京都立図書館東京アーカイブより部分使用）

■ こんにゃく閻魔（源覚寺）

文京区小石川 2-23-14

源覚寺は寛永元年（1624）創建の浄土宗の寺院。閻魔堂に安置する閻魔像は鎌倉時代の作ともいわれ、文京区指定の文化財です。江戸時代中期にある老婆が閻魔様に目の快癒を祈りその願いが聞き入れられました。その眼は閻魔様より譲られたのでしょうか。この写真をよくご覧ください。右目が濁っていませんか。その老婆は好物のこんにゃくを断ち、お供えして感謝を表したそうです。今でもこんにゃくをお供えして閻魔様に祈願する人が絶えません。

木造・閻魔王坐像(文京区の文化財』文京区教育委員会平成 23 年度）

境内には他に、毘沙門天（小石川七福神)、塩地蔵が祀られています。数奇な運命をたどった”汎太平洋の鐘“にもご注目。

太平洋の鐘

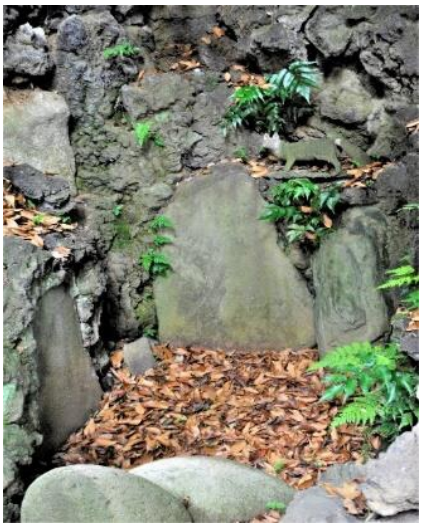
■澤蔵司稲荷(慈眼院)

文京区小石川 3-17-12

元和６年(1620)に、創建の浄土宗寺院。その創建にはあるエピソードが伝わっています。
傳通院で学んでいた澤蔵司という学僧が僅か３年余りで浄土教の奥義を修得してしまいました。そして和尚達の夢枕に立ち「余は千代田城の内の稲荷大明神である。かねて勉強をしたいと思っていた長年の希望ここに達した。今より元の神に帰るが、長く当山を守護して、恩に報いる」と告げて暁の雲に隠れたと言われています。その後、澤蔵司を祀る稲荷社とその別当寺院として慈眼院が傳通院山内に建てられました。(澤蔵司ホームページより抜粋)

澤藏司(4 月例大祭)

◇霊窟（おあな）東裏の崖下に狐の洞穴跡があり、窪地に稲荷が祀られています。



おあな

稲荷神社

■傳通院（無量山傳通院寿経寺）

文京区小石川 3-14-6

傳 通 院　総門　（写真：文京観光ガイドマップより）

応永 22 年（1415）無量山寿経寺を良誉聖冏上人が開山した浄土宗の寺院。約 200 年後、徳川家康生母於大の方の菩提寺となり、以来徳川幕府の庇護の元で諸堂伽藍が整えられました。於大の方の法名「傳通院殿蓉誉光岳智光大禅定尼」より、傳通院と呼ばれるようになりました。
永井荷風は随筆「伝通院」で「私の生まれた小石川をば（少なくとも私の心だけには）あくまで

も小石川らしく思わせ、他の街からこの一区域を差別させるのはあの伝通院である」と書いています。江戸名所図会にも多くのページを割いて紹介されています。
墓域には、家康の生母於大の方、二代将軍秀忠の長女千姫、三代将軍家光の正室孝子など徳川家ゆかりの女性の墓が多くあります。
◇傳通院(墓域)

於大の方

千姫

■福聚院 (霊應山福聚院鎮護寺)

文京区小石川 3-2-23

木造・大黒天坐像(『文京区の文化財』文京区教育委員会平成 23 年度)

安永３年に（1774）開山された浄土宗の寺院。大黒天の祭日、甲子の日に参ると商売繁盛、金運に恵まれると言われ、賑わっていました。
◇大黒天：文京区指定文化財。小像ながら、数少ない古式武装神スタイルで、鎌倉時代のものです（小石川七福神）。
◇唐辛子地蔵：咳に苦しむ人が祈願すると治り、お礼に唐辛子を供えるようになったと伝えられています。
（「ぶんきょうの史跡めぐり」より抜粋）

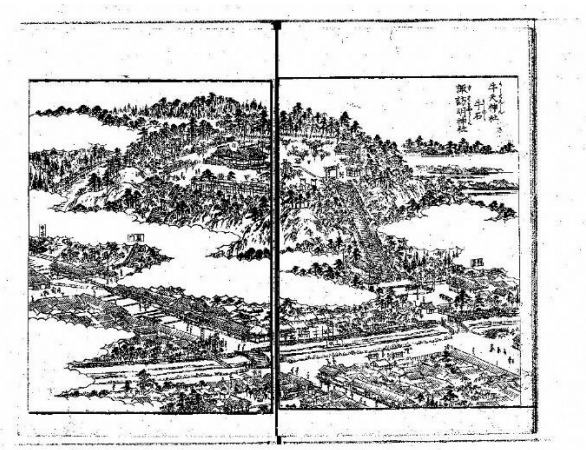
■牛天神（北野神社）

文京区春日１-５-２

鎌倉幕府が開かれる頃、小石川台地の先端は岬でした。東北に船で向かっていた源頼朝が入り江の高台にあった岩に腰掛けて休息していたとき、夢の中に牛にのった菅原道真公が現れて吉事を予言しました。翌年お告げが叶ったので、頼朝はその岩を奉り、菅原道真を勧請し、ここに天神社を創りました。社殿前にある牛の形をした岩(牛石)を撫でると願いが叶うといわれています。なぜ牛天神を呼ばれるか、お分かりになりましたか。

牛天神社殿

小石川牛天神・狛犬



江戸名所図会牛天神社
（国立国会図書館デジタルコレクション）

富嶽三十六景　「礫川雪の旦」

葛飾北斎が牛天神の境内からの眺めを描いたといわれています。

毎年 7 月にこの地域の寺社を会場として、朝顔・ほおずき市が開かれます。夏の風物詩を楽しむのにぴったりな場所です。
このコースにはほかにもたくさんの見どころがあります。どうぞお越しください。

ガイドツアーのお申し込みはこちらから

「構成、文　文京区観光ガイド」（出典の記載のない画像は筆者撮影）